

# 茂木智弘の外国語活動（高学年複式）研究計画

## 1 本研究で目指す子ども

外国語教育の究極の目標は、互いを理解し合おうとする態度の育成である。何故なら言葉は、人が互いを理解し合おうと開発したコミュニケーション手段の一つだからである。人は、言葉を使っていく中で学び、発展させてきた。従って、言語の習得は、互いを理解し合いたいと使っていく中で育まれていくのが自然である。この学びに正対した研究に CLIL がある。CLIL は、他教科の学習内容を題材にし、英語で学ばせる指導法である。現在、世界的に主流となりつつある指導法でありながら日本では普及していない。本研究では資質・能力の育成という視点から指導改善を図り、新学習指導要領に対応した日本の小学校版 CLIL の指導の在り方を探る。

日本の小学校における CLIL 導入の指導上の大きな問題点は、2つの学習内容（英語と他教科）の習得を同時に追い求める教育課程と環境を設定することが困難な点にある。諸外国では、英語の時数を増やしたり、他教科の一部を英語で行う授業に位置付けたりしている。また、日常生活においても母国語以外の言語に触れる環境や文化が根付いている場合が多い。そのため、日本の小学校に CLIL そのものを導入すると、子どもは①学習内容が高度になり過ぎて英語力が追い付かない。②学んだ英語を日常生活で使う場面が乏しいため、身に付かない。といった2つの学習内容の習得が中途半端になる。そのため、授業で何を学んだのか分からず、活動のみの授業になりがちである。

そこで、次のような改善を図り、新しい CLIL 指導の在り方を探る。まず1点目は、他教科の学びの改善である。習得ではなく、活用（資質・能力の発揮）に価値を置く。こうすることで、活動内容は他教科になりつつも、学習内容は、外国語活動になる授業を具現することができる。また、子どもが使う外国語も高度にならない。2点目は、外国語活動の学びの質の改善である。究極の目標は態度育成であるが、外国語教育である以上外国語を使える有用性に気付かせる必要がある。互いを理解し合えた達成感を得つつも、どんな外国語をどのように使ったかをとらえられるようにする。こうすることで、日常的に繰り返し使いながら自然に身に付けさせるのではなく、手段と目的の関係から外国語を学び、身に付けられるようになる。これらの改善点を踏まえ、次の授業展開を提案する。

### 【活動内容】

- ・他教科で学んだ資質・能力が発揮でき、子どもが意欲的にコミュニケーションを図りながら活動できる内容を設定する。

### 【目的】

- ・外国語活動にかかわる問いをもたせつつ、解決には他教科の資質・能力を必要とする目的を設定する。

### 【達成過程】（思考ツールを用いて）

- ・目的を達成させるために、各教科の資質・能力を発揮させながら、活動内容を工夫・改善させる。
- ・目的を達成させるために、工夫した活動内容を外国語活動、国語科の資質・能力を発揮させながら具現させる。

### 【目的達成】

- ・解決に至った工夫・改善を振り返らせる（各教科の資質・能力の自覚）。
- ・解決に至ったやりとりを振り返らせる（言語教科の資質・能力の自覚）。

### 【授業時間】

- ・定型表現の慣れ親しみに必要な時間やコミュニケーション活動に必要な時間などは、必要に応じてモジュール制を導入し、弾力的なカリキュラムを編成する。

以上のことから、**活動内容を工夫・改善し、英語を用いてコミュニケーションを図りながら、理解し合う子ども**を目指す。理解し合うとは、単元の目標が伝えることであれば、自分の伝えたいことが伝わった姿であり、相手のことを知る、聞く単元であれば、聞きたいことを聞いた姿である。

## 2 本研究で育む資質・能力

①個別の知識や技能	②ツール活用能力	③見方や考え方	④態度
○馴染みのある定型表現で聞いたり、話したりする力（発音を含む） ○会話に必要な言語材料やコミュニケーション手段を使う力	○目的と手段を結びつける。 ○英語とコミュニケーション能力を結びつける。	○相手の意図や気持ちを考えながら定型表現でやりとりする力 ○場面や状況に応じて定型表現でやりとり（発音を含む）する力	○外国語を用いて、コミュニケーションを図る楽しさや大切さを知り、自ら人と関わろうとする態度

## 3 主張する働き掛け

単元で学ばせたい定型表現に慣れ親しみ、聞いたり話したりでき、かつ活動に目的をもっている子ども（C0）に次の働き掛けをする。

### 働き掛け 1

経験したことがある他教科の活動内容を想起または経験させ、英語を使って目的が達成できそう（た）か問い、その要因を全体で考えさせる。

※学習段階を考慮し、年間指導前半＝経験させ、英語を使って目的達成できたかを問う。  
年間指導後半＝想起させ、英語を使って目的達成できそうかを問う。

活動内容を把握し、学習内容及び伝達方法に問いをもたせるための働き掛けである。

ここで言う活動内容は、他教科で経験したことのある内容であり、伝達方法は、言語運用にかかわる問いである。子どもは、既習の活動内容を英語で実践をすることで、互いを理解する。経験したことのある他教科の活動内容を提示または経験させる。子どもは、既習の学習や経験を想起し、自分のできること、分かることから考え始める。このような子どもに問いを促す働き掛けとして、活動を互いに振り返らせ、「他の人（ALT, HRT, 友達, 留学生など）に、伝えたいことや聞きたいことが伝えられそう（た）か、またそれは何故か」と問う。子どもは、自分（たち）のできる（た）・分かる（った）と相手に対する既有的知識や技能、経験、印象と比較しながら「△△だから▲▲は伝えられ・聞け（た）けれど、□□だから■■は伝えられる・聞け（た）か不安」などと問いをもつ。

#### 働き掛け2

コミュニケーションシートを基に、活動内容と伝え方に分けて工夫・改善策を考えさせ、自分（たち）の活動を見つめ直させる。

改善策を見い出させ、（次への）活動の見通しをもたせるための働き掛けである。

教師は、「不安を解消するためには、どうすればよいか」と全体に問う。すると子どもは、コミュニケーションシートを基に、活動内容と伝え方の両面から工夫・改善策を考えるようになる。教師は、活動内容と伝え方、問題点（伝わらなかった原因）と改善策を整理・分類しながら板書し、次への活動の準備を班でさせる。子どもは、活動内容を視点に各教科の資質・能力③を発揮させながら、活動内容を工夫・改善する。また、改善された内容を基にどのように伝えるかという視点から伝え方を考える。

教師は、「これで次の活動ができそうか」と問う。子どもは、学級全体で共有された問題点と改善策から直面している自分たちの問題点に対する具体的な改善策と伝え方を見だし、次への活動の見通しをもつようになる。

#### 働き掛け3

目的達成のために班で（再度）活動をさせる。

妥当な改善策を実行し、目的を達成させるための働き掛けである。

子どもは、工夫・改善策を見出し、目的達成に向けて見通しをもっている状態である。このような子どもに実践場面でどのようにやりとりすれば、目的達成するためのやりとりになるのかを班で体験させる。班でのやりとりは、複数の質問や答えを英語で聞き取ったり、文脈の中で自分の聞きたいこと・伝えたいことを伝える必要があるため、より自然なやりとりが実現する。子どもは、**資質・能力 外・国③（場面・状況・相手の意図や気持ちに応じて言葉「英語」でやりとりする力）**を発揮しながら、工夫・改善策を実行し、やりとりするようになる。

#### 働き掛け4

コミュニケーションシートを基に、活動結果とその様子についての感想を問う。

目的の達成と、その要因を自覚させるための働き掛けである。

活動を英語でやりとりした子どもに、「活動をしてみてどうだったか」を問う。すると子どもは、目標が達成できたかについての感想を述べるようになる。教師は、子どもの発言を受けて、「何故達成できた（またはできなかった）か」について問う。子どもは、コミュニケーションシートと活動の具体的な様子から「○○を工夫・改善したから（けど）」、「◇◇という英語を加えたり、直したりしたから（けど）」などと、工夫・改善策と伝え方の視点からその要因を話すようになる。この姿が**活動内容を工夫・改善し、英語を用いてコミュニケーションを図る中で、理解し合う姿（Cn）**である。

## 4 検証

### (1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したCnになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。
- ① 子どもは発揮した資質・能力を自覚することができたか。

### (2) 検証の方法

- ① 働き掛け4において、自他を理解することができたかを発言や記述から検証する。
- ②-1 働き掛け2において、各教科の資質・能力③を発揮し、工夫・改善策を見い出せているか記述から検証する。
- ②-2 働き掛け3において、言語（外国語活動・国語）の資質能力③を発揮し、目的達成のためのやりとりができていないかパフォーマンスで検証する。
- ③ 働き掛け4において、想定された資質・能力を自覚できたかを記述から検証する。

## 5 年間の授業計画

- |             |      |                      |       |
|-------------|------|----------------------|-------|
| (1) 指定研究授業  | (7月) | 「Let's chants!」      | (6時間) |
| (2) 中間検討会   | (9月) | 「Let's sing a song!」 | (5時間) |
| (3) 初等教育研究会 | (2月) | 「Let's talk myself!」 | (6時間) |